

第1回学校の在り方地域懇談会（八街中学校区）

次 第

日 時 令和7年8月18日(月)

午後2時00分

場 所 八街中学校会議室

1 開 会

2 教育長挨拶

3 自 己 紹 介

4 議 題

(1) 小中学校の現状と課題について

(2) 児童生徒数の推計について

(3) 県内市町村の取組事例について

(4) その他

5 閉 会

「学校の在り方地域懇談会」資料（各小中学校の現状と課題）

【八街市立八街東小学校】

※児童・生徒が最も多かった時期と現在とを比較して記入してください。	教育活動の変化や留意事項	
	最も多かった時期（平成8年度） 児童数：1096人 教員数：40人	現在（令和7年度） 児童数：598人 教員数：34人
学校の雰囲気・人間関係	<p>児童生徒数の多寡により、学校全体や学級内の活気、人と人との関わり方、異学年交流、教職員と児童生徒の関係性など</p> <p>以前は児童数が1000人を超える大規模校であったため、学校全体としては運動会などの各種行事や陸上や合唱などの課外活動でたいへん活気があり充実していたようであった。一方で、児童数が多いため子どもたち同士のトラブルも多く、対応に苦慮していたようである。現在は各学年3学級のため、児童数としては多くもなく、少なくもなくちょうどよいが、特別支援学級が知的3学級、情緒6学級あり、加えて、通常学級にも支援を必要としている児童や外国籍児童が多く、児童数に比べて対応が多いのが現状である。</p>	
授業や学習活動 ・学校行事	<p>授業の進め方や学習形態の変化、少人数指導やICTの活用状況、学校行事の規模や内容、運営方法など</p> <p>学級児童数の平均は30名前後そのため、以前の40人学級に比べると、個に応じた指導・支援がしやすい体制になってきている。また、電子黒板やクロムブックなどICTの活用が進んだため、視覚的でより分かりやすい授業、効率的な学習環境が整ってきた。学校行事に関しては、コロナ禍を機に規模や内容が精選され、学校としては取り組みやすい状況になった。</p>	
教職員体制・学校運営	<p>教職員の人数や配置、年齢構成、兼務の実態、校務分掌の在り方、管理職や主任の負担感、外部支援者の活用状況など</p> <p>県費負担教職員41名、会計年度任用職員20名と児童数に伴い職員数も多い。そのため、校務分掌は様々にかけ持つことなく集中でき、一人にかかる負担は少ない。本務教員の平均年齢は38.8歳、ほぼ20代から30代の職員で占められ、若い職員構成となっている。若い職員が多いため活気はあるが、経験が浅くベテラン層も少ないため、人材育成が課題である。また、教頭は保護者からのクレームや相談事が多く、毎日数件対応していて多忙である。</p>	

「学校の在り方地域懇談会」資料（各小中学校の現状と課題）

【八街市立八街東小学校】

※児童・生徒が最も多かった時期と現在とを比較して記入してください。	教育活動の変化や留意事項	
	最も多かった時期（平成8年度） 児童数：1096人 教員数：40人	現在（令和7年度） 児童数：598人 教員数：34人
施設の維持管理 ・空間の使い方	<p>施設の維持管理、空き教室や特別教室の利用方法、共有スペースの活用、防災・安全面への対応など</p> <p>児童数は減少して通常学級数は減少したものの、特別支援学級が増加しているため、教室数としては空き教室がほぼない状況である。以前使用していた旧プレハブ校舎も、現在教育支援教室として一部活用している。</p>	
保護者や地域との関わり ・子どもを取り巻く環境	<p>PTA活動や地域ボランティアの関わり、登下校の安全体制、放課後の過ごし方、地域行事や外部関係団体との連携状況など</p> <p>本校では、平成25年度に学校支援ボランティア団体「八街東みらい塾」が発足し、地域の皆様にも登下校時の見守りや図書ボランティア、2年生の算数科学習支援などで協力いただいている。また、月に1度「わらべ会」の皆様に、1年生で読み聞かせを行っていただいているなど、たくさんの地域の方々に支えられている。「八街東みらい塾」には、現在16名の方に登録していただいているが、高齢化が進み、後継者を見つけていくことが今後の課題となっている。登下校の見守りに関しては、現在5名になってしまった。</p>	
部活動・クラブ活動	<p>活動の種類や実施状況、児童生徒の参加人数、教職員の指導体制、他校との合同実施や地域クラブとの連携など</p> <p>部活動としては、陸上（5・6年全児童）と合唱（5・6年希望者）を行っている。陸上は担任、合唱は音楽担当が中心に指導している。コロナ禍以降、八街市では朝練習が禁止となり技能の低下は否めないが、教員の時間的なゆとりは確保できるようになった。</p>	

「学校の在り方地域懇談会」資料（各小中学校の現状と課題）

【八街市立八街北小学校】

※児童・生徒が最も多かった時期と現在とを比較して記入してください。	教育活動の変化や留意事項	
	最も多かった時期（平成7年度） 児童数：702人 教員数：30人	現在（令和7年度） 児童数：224人 教員数：18人
学校の雰囲気・人間関係	<p>児童生徒数の多寡により、学校全体や学級内の活気、人と人との関わり方、異学年交流、教職員と児童生徒の関係性など</p> <p>○どの学年も30～40人程度の児童がおり、落ち着いた雰囲気である。 ○登校班や縦割り活動など異学年との関わる機会もあるため、顔見知りも多く、親密な関係が築きやすい。 ○教職員の目も行き届き、様々な職員と児童の関係性が築きやすい。 △友達との対立やトラブルが起きたときに単学級が多いため逃げ場がない。 △人間関係が固定しがちである。</p>	
授業や学習活動 ・学校行事	<p>授業の進め方や学習形態の変化、少人数指導やICTの活用状況、学校行事の規模や内容、運営方法など</p> <p>○学級の児童が少ないと、児童一人一人を把握でき、個に応じた指導ができる。（北小の単学級はも30～40人いる。） ○学級の児童が少ないと発言・発表の機会も多く、授業に積極的に関われる。 △学級の児童数が少ないと学びの刺激や切磋琢磨する機会が少ない。 △学級の人数が少ないと多様な考えがでにくい。 △学年に複数学級あると、協力体制（交換授業、T.T、能力別学習など）が作れるが、単学級では、実態に合わせた学習形態での取り組みが難しい。</p>	
教職員体制・学校運営	<p>教職員の人数や配置、年齢構成、兼務の実態、校務分掌の在り方、管理職や主任の負担感、外部支援者の活用状況など</p> <p>○若い職員が多く、活気に溢れている。 △見守り隊や学習ボランティアなどの地域の協力者の減少・高齢化 △大規模校に比べ、職員一人一人の校務分掌の負担が大きい。 △若い職員が多く、年齢構成のバランスが悪くなっている。</p>	

「学校の在り方地域懇談会」資料（各小中学校の現状と課題）

【八街市立八街北小学校】

※児童・生徒が最も多かった時期と現在とを比較して記入してください。	教育活動の変化や留意事項	
	最も多かった時期（平成7年度） 児童数：702人 教員数：30人	現在（令和7年度） 児童数：224人 教員数：18人
施設の維持管理 ・空間の使い方	<p>施設の維持管理、空き教室や特別教室の利用方法、共有スペースの活用、防災・安全面への対応など</p> <p>○空き教室が多くあり、多目的室等として活用している。 △職員が減少し、一人の管理責任場所が多くなり、負担増になっている。 △児童の減少に伴い、学校全体の清掃が行き届きにくくなっている。 △特別棟の利用が少なくなり、教職員の死角になりやすい。</p>	
保護者や地域との関わり ・子どもを取り巻く環境	<p>PTA活動や地域ボランティアの関わり、登下校の安全体制、放課後の過ごし方、地域行事や外部関係団体との連携状況など</p> <p>○PTA組織が、従来の役員体制からボランティアへ変更され、保護者の負担が軽減された。 △保護者同士の関係も希薄になってきている。 △児童の減少により、登下校が一人になってしまっている児童もおり安全面の不安がある。 △登下校の見守り隊や学習ボランティアなど高齢化が進み、この体制を維持していくことが難しくなってきている。 △習い事の増加など放課後時間にゆとりがなくなり友達との係る次官の減少。また、外遊びや友達と一緒に集まって遊ぶことも減り、各家庭からオンラインでゲームをしたり、SNSでのやり取りも増えている。 △少子化、共働き世帯の増加、役員不足によりPTA活動が衰退している。一部の保護者への負担が集中している。</p>	
部活動・クラブ活動	<p>活動の種類や実施状況、児童生徒の参加人数、教職員の指導体制、他校との合同実施や地域クラブとの連携など</p> <p>△働き方改革や指導者の確保も難しくなり、部活動は時期的な陸上、吹奏楽だけとなっている。</p>	

「学校の在り方地域懇談会」資料（各小中学校の現状と課題）

【八街市立八街中学校】

※児童・生徒が最も多かった時期と現在とを比較して記入してください。	教育活動の変化や留意事項	
	最も多かった時期（平成8年度） 生徒数：1388人 教員数：62人	現在（令和7年度） 生徒数：461人 教員数：36人
学校の雰囲気・人間関係	<p>児童生徒数の多寡により、学校全体や学級内の活気、人と人との関わり方、異学年交流、教職員と児童生徒の関係性など</p> <p>本校は昨年度より45名生徒が減少し、通常学級数は1学年が1学級減で4学級、2, 3学年は共に5学級となっている。次年度の学級数も1学年は4学級の見込みである。通常学級の生徒数はどの学年も32～34名である。生徒は落ち着いているが、生徒数の減少に相関があるかはわからない。ただ、東小と北小の生徒の割合は約4:1であるが、長欠者数の割合は約3:1である。児童数が少ない北小の卒業生が長欠になりやすい傾向にある。学校全体の雰囲気は活気があり、明るいが、長欠の生徒は昨年度は全体の10%、今年度は6月現在で28名(6.1%)となっている。人間関係のトラブルも数件あり、早期解消に至っている。それでも尚、集団に入りにくいという生徒は増加傾向にある。</p>	
授業や学習活動 ・学校行事	<p>授業の進め方や学習形態の変化、少人数指導やICTの活用状況、学校行事の規模や内容、運営方法など</p> <p>数学科は、3年生が2C3T、2年生が1C2Tの少人数で行っている。1年生は学習サポーターが週1で配置されている。ICT機器はどの教科でも効果的に活用されている。自分の意見を投稿し、他の考え方と比較する場面では生徒が主体的に活動することができる。学校行事は盛んに行われている。体育祭では集団行動やダンス等で素晴らしい演技を行っている。合唱コンクールでは声量のある美しいハーモニーが会場に響き渡る。いずれも、この人数だからこそ迫力があるダイナミックな演技、演奏ができるのだと思う。また、互いに競い合いながら、切磋琢磨することが生徒をより成長させる。運営についても生徒が主体となって、組織的に行うことができている。</p>	
教職員体制・学校運営	<p>教職員の人数や配置、年齢構成、兼務の実態、校務分掌の在り方、管理職や主任の負担感、外部支援者の活用状況など</p> <p>県費フルタイムの職員は40名、うち2名が育児休暇を取得している。内訳は各学年の職員数は10名、うち特別支援学級担当は7名、校長、教頭、教務、生徒指導、養護教諭2名、事務職員2名である。その他初任者指導、SC、SSW、教育支援2名、日本語指導、図書館司書、学校用務員、給食配膳員、教頭業務支援員、SSS2名の会計年度任用職員とALTである。県費正規採用職員の年齢構成(年度末)は60代3名、50代5名、40代7名、30代16名、20代5名、10代1名となっており、比較的バランスはとれている。校務分掌にもベテラン・中堅と若手が適材適所に割り振られている。学年がチーム一丸となって、取り組んでおり、職員室は活気がある。ただ、一生懸命なだけにオーバーワークになっている職員も複数いる。</p>	

「学校の在り方地域懇談会」資料（各小中学校の現状と課題）

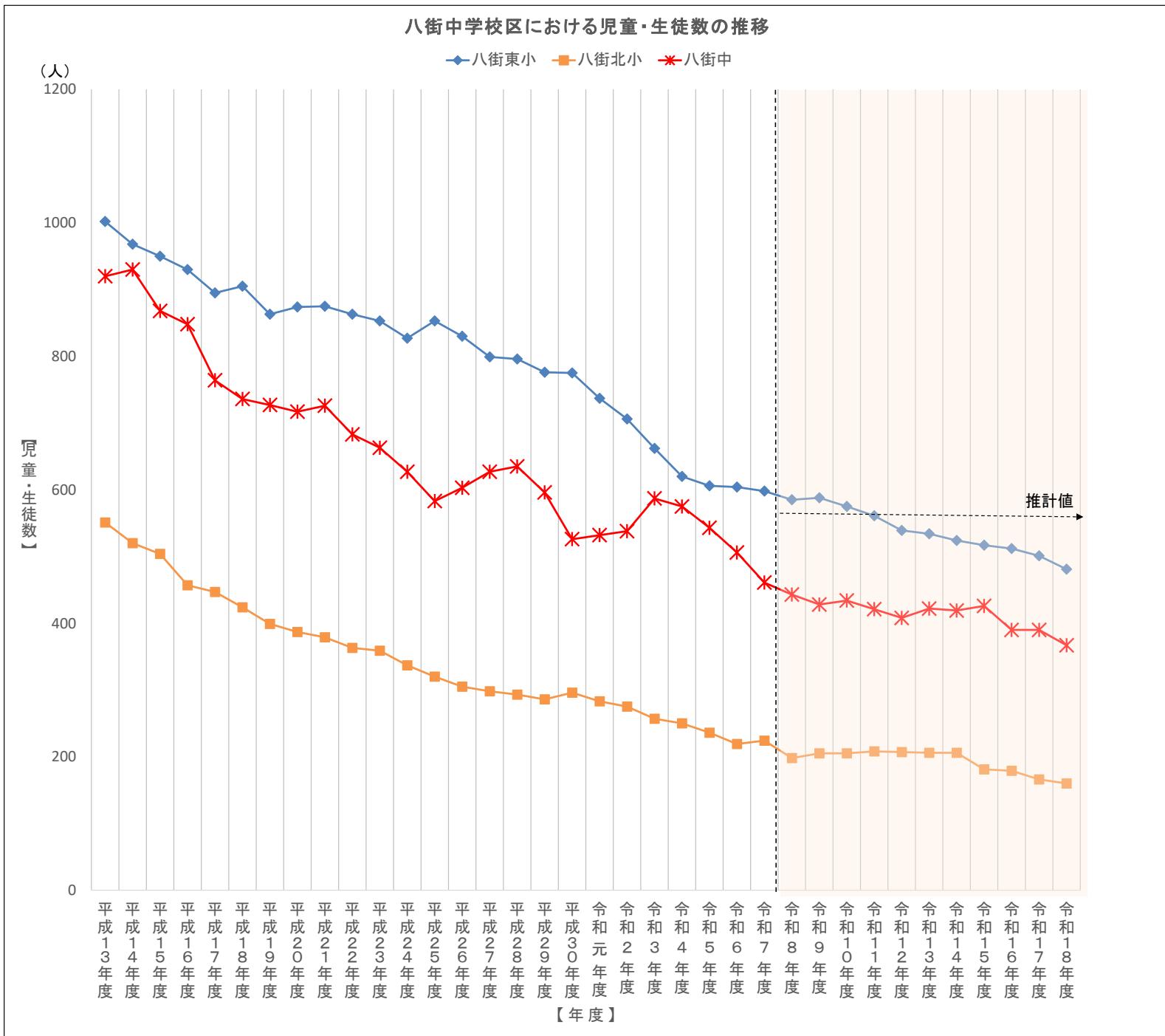
【八街市立八街中学校】

※児童・生徒が最も多かった時期と現在とを比較して記入してください。	教育活動の変化や留意事項	
	最も多かった時期（平成8年度） 生徒数：1388人 教員数：62人	現在（令和7年度） 生徒数：461人 教員数：36人
施設の維持管理 ・空間の使い方	<p>施設の維持管理、空き教室や特別教室の利用方法、共有スペースの活用、防災・安全面への対応など</p> <p>施設は老朽化しており、教室の床や天井、ドアノブ、トイレの詰まり、雨漏り等、頻繁に損傷が認められ、維持管理は困難である。空き教室は更衣室や数学科の少人数教室として、有効利用できている。特別教室は音楽室、理科室、家庭科室、木工室、金工室、美術室として利用している。共有スペースはない。防災・安全面への対応としては、教室が上に積み上げられている校舎の構造上、非常階段は設置されているが、避難時に利用したとき、高所であるため、十分に安全が確保されているとは言い難い。</p>	
保護者や地域との関わり ・子どもを取り巻く環境	<p>PTA活動や地域ボランティアの関わり、登下校の安全体制、放課後の過ごし方、地域行事や外部関係団体との連携状況など</p> <p>PTA活動は主に環境整備作業として、グランドや校舎周りの除草作業や校舎内の壁塗等である。今年度より学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を立ち上げ、学校運営方針について承認を受けたり、学校の様子を参観していただいた中で、課題等を話し合いながら、地域から信頼されるよりよい学校づくりを目指している。登下校の安全指導は定期的に行っているが、自転車による事故は数件ある。地域との関りについては、2学年の生徒が産業まつりに参加、協力したり、生徒会を中心はずらん商店街の活性化の推進活動をNPO法人「ナツツアップ」の支援の中、行ったりしている。</p>	
部活動・クラブ活動	<p>活動の種類や実施状況、児童生徒の参加人数、教職員の指導体制、他校との合同実施や地域クラブとの連携など</p> <p>陸上34、サッカー41、野球10、男子テニス25、女子テニス34、バドミントン43、バレー12、卓球34、男子バスケ13、女子バスケ24、剣道13、柔道22、吹奏楽25、美術27、科学16、演劇16であり、陸上、野球、剣道、演劇については今年度より地域展開により土日はクラブチームとして活動している。ただ、現状としては、土日のコーチに登録しているのは、ほとんどが教員であるので、指導体制としてはあまり変わっていない。今後地域展開は進められ、令和13年度にはすべての部活動がクラブチームなる予定である。しかし、次年度からは補助金がつかなくなり、月謝が保護者負担になることや民間でコーチの成り手がいない等、様々なハードルがある。</p>	

(単位:人)

八街中学校区における児童・生徒数の推移

学校年度	八街東小	八街北小	八街中
平成13年度	1002	551	920
平成14年度	968	520	930
平成15年度	950	504	868
平成16年度	930	457	848
平成17年度	895	447	764
平成18年度	905	424	736
平成19年度	863	399	727
平成20年度	874	387	717
平成21年度	875	379	726
平成22年度	863	363	683
平成23年度	853	359	663
平成24年度	827	337	627
平成25年度	853	320	583
平成26年度	830	305	603
平成27年度	799	298	627
平成28年度	796	293	635
平成29年度	776	286	596
平成30年度	775	296	526
令和元年度	737	283	532
令和2年度	706	275	538
令和3年度	662	257	587
令和4年度	620	250	575
令和5年度	606	236	543
令和6年度	604	219	506
令和7年度	598	224	461
令和8年度	585	198	443
令和9年度	588	205	428
令和10年度	575	205	434
令和11年度	561	208	421
令和12年度	539	207	408
令和13年度	534	206	422
令和14年度	524	206	419
令和15年度	517	181	426
令和16年度	512	179	390
令和17年度	501	166	390
令和18年度	481	160	367



学級編制推移一覧

八街中学校

(各年5月1日現在)

学年 年度	1年		2年		3年		合計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
平成13年度	8	290	8	313	8	317	24	920
平成14年度	8	317	8	297	8	316	24	930
平成15年度	7	257	8	315	8	296	23	868
平成16年度	7	270	7	259	8	319	22	848
平成17年度	7	243	7	262	7	259	21	764
平成18年度	7	228	7	245	7	263	21	736
平成19年度	7	252	7	229	7	246	21	727
平成20年度	7	233	7	251	7	233	21	717
平成21年度	7	246	7	234	7	246	21	726
平成22年度	6	208	7	242	7	233	20	683
平成23年度	6	209	6	211	7	243	19	663
平成24年度	6	199	6	211	6	217	18	627
平成25年度	6	177	6	200	6	206	18	583
平成26年度	7	220	6	182	6	201	19	603
平成27年度	7	226	7	219	6	182	20	627
平成28年度	5	179	7	231	7	225	19	635
平成29年度	5	190	5	176	7	230	17	596
平成30年度	5	155	5	192	5	179	15	526
令和1年度	5	181	5	156	5	195	15	532
令和2年度	6	198	5	186	5	154	16	538
令和3年度	6	202	5	199	5	186	16	587
令和4年度	5	174	5	202	5	199	15	575
令和5年度	5	166	5	173	5	204	15	543
令和6年度	5	166	5	165	5	175	15	506
令和7年度	4	129	5	166	5	166	14	461
令和8年度	4	145	4	130	5	168	13	443
令和9年度	4	151	4	146	4	131	12	428
令和10年度	4	135	4	152	4	147	12	434
令和11年度	4	132	4	136	4	153	12	421
令和12年度	4	139	4	132	4	137	12	408
令和13年度	4	149	4	140	4	133	12	422
令和14年度	4	128	4	150	4	141	12	419
令和15年度	4	146	4	129	4	151	12	426
令和16年度	3	113	4	147	4	130	11	390
令和17年度	4	128	3	114	4	148	11	390
令和18年度	4	124	4	128	3	115	11	367

※学級数は普通級数を児童数は総児童数を表示している。

※令和8年度からは推計を表示している。

学級編制推移一覧

八街東小学校

(各年5月1日現在)

学年 年度	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計	
	学級 数	児童 数												
平成13年度	5	164	4	151	4	160	4	159	5	163	6	205	28	1,002
平成14年度	4	142	5	172	4	154	5	169	5	164	5	167	28	968
平成15年度	5	160	4	141	5	173	4	147	5	168	5	161	28	950
平成16年度	4	142	5	162	4	143	5	171	4	146	5	166	27	930
平成17年度	4	135	4	142	4	158	4	141	5	172	4	147	25	895
平成18年度	4	131	4	139	4	146	5	168	4	146	5	175	26	905
平成19年度	4	123	4	133	4	141	4	144	5	174	4	148	25	863
平成20年度	5	148	4	127	4	135	4	146	4	144	5	174	26	874
平成21年度	5	164	5	153	4	130	4	135	4	147	4	146	26	875
平成22年度	4	129	5	164	5	157	4	130	4	134	4	149	26	863
平成23年度	4	138	4	133	5	165	5	157	4	126	4	134	26	853
平成24年度	4	110	4	140	4	133	5	162	5	159	4	123	26	827
平成25年度	4	132	4	114	4	140	4	133	5	172	5	162	26	853
平成26年度	4	140	4	129	3	113	4	139	4	137	5	172	24	830
平成27年度	4	132	4	143	4	131	3	112	4	142	4	139	23	799
平成28年度	4	131	4	135	4	144	4	130	3	115	4	141	23	796
平成29年度	4	122	4	132	4	135	4	141	4	131	3	115	23	776
平成30年度	3	102	4	123	4	136	4	136	4	145	4	133	23	775
令和1年度	3	93	3	104	4	119	4	136	4	139	4	146	22	737
令和2年度	3	99	3	91	3	105	4	127	4	140	4	144	21	706
令和3年度	3	103	3	96	3	91	3	109	4	125	4	138	20	662
令和4年度	3	84	3	107	3	100	3	92	3	111	4	126	19	620
令和5年度	3	95	3	85	3	110	3	107	3	94	3	115	18	606
令和6年度	3	99	3	98	3	90	3	114	3	110	3	93	18	604
令和7年度	3	81	3	101	3	101	3	94	3	111	3	110	18	598
令和8年度	3	79	3	95	4	113	3	102	3	102	3	94	19	585
令和9年度	3	73	3	96	3	96	4	115	3	104	3	104	19	588
令和10年度	2	69	3	89	3	97	3	97	4	117	4	106	19	575
令和11年度	3	71	3	84	3	90	3	98	3	99	4	119	19	561
令和12年度	3	76	3	86	3	85	3	91	3	100	3	101	18	539
令和13年度	3	73	3	93	3	87	3	86	3	93	3	102	18	534
令和14年度	2	70	3	89	3	94	3	88	3	88	3	95	17	524
令和15年度	2	67	3	85	3	90	3	95	3	90	3	90	17	517
令和16年度	2	64	3	82	3	86	3	91	3	97	3	92	17	512
令和17年度	2	62	3	78	3	82	3	87	3	93	3	99	17	501
令和18年度	2	59	3	75	3	79	3	84	3	89	3	95	17	481

※学級数は普通級数を児童数は総児童数を表示している。

※令和8年度からは推計を表示している。

学級編制推移一覧

八街北小学校

(各年5月1日現在)

学年 年度	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計	
	学級 数	児童 数												
平成13年度	2	71	3	91	2	80	3	102	3	98	3	109	16	551
平成14年度	2	76	2	77	3	89	2	79	3	102	3	97	15	520
平成15年度	2	70	2	75	2	81	3	91	2	81	3	106	14	504
平成16年度	2	66	2	66	2	73	2	80	3	90	3	82	14	457
平成17年度	2	69	2	66	2	68	2	73	2	80	3	91	13	447
平成18年度	2	63	2	71	2	63	2	69	2	76	3	82	13	424
平成19年度	2	61	2	60	2	70	2	59	2	72	3	77	13	399
平成20年度	2	67	2	60	2	61	2	69	2	59	2	71	12	387
平成21年度	2	59	2	67	2	60	2	62	2	70	2	61	12	379
平成22年度	2	47	2	55	2	68	2	61	2	63	2	69	12	363
平成23年度	2	61	2	47	2	55	2	69	2	61	2	66	12	359
平成24年度	2	42	2	59	2	48	2	58	2	69	2	61	12	337
平成25年度	2	48	2	42	2	54	2	49	2	59	2	68	12	320
平成26年度	2	52	2	49	2	43	2	55	2	48	2	58	12	305
平成27年度	2	52	2	51	2	47	2	44	2	56	2	48	12	298
平成28年度	2	42	2	52	2	52	2	46	2	45	2	56	12	293
平成29年度	2	41	2	43	2	56	2	54	2	47	2	45	12	286
平成30年度	2	48	2	41	2	44	2	58	2	56	2	49	12	296
令和1年度	1	35	2	48	2	43	2	42	2	59	2	56	11	283
令和2年度	2	43	1	35	2	49	2	44	2	44	2	60	11	275
令和3年度	2	38	2	43	2	39	2	50	2	44	2	43	12	257
令和4年度	2	43	2	36	2	43	2	39	2	46	2	43	12	250
令和5年度	1	28	2	43	2	38	2	41	2	39	2	47	11	236
令和6年度	1	34	1	29	2	43	2	37	1	37	1	39	8	219
令和7年度	2	39	1	33	1	31	2	42	1	38	1	41	8	224
令和8年度	1	27	1	30	1	33	1	35	1	30	2	43	7	198
令和9年度	2	46	1	30	1	30	1	34	1	35	1	30	7	205
令和10年度	1	25	2	50	1	30	1	31	1	34	1	35	7	205
令和11年度	1	34	1	28	2	50	1	31	1	31	1	34	7	208
令和12年度	1	28	2	37	1	28	2	52	1	31	1	31	8	207
令和13年度	1	27	1	30	2	37	1	29	2	52	1	31	8	206
令和14年度	1	26	1	29	1	31	2	39	1	29	2	52	8	206
令和15年度	1	24	1	28	1	29	1	32	2	39	1	29	7	181
令和16年度	1	23	1	27	1	28	1	30	1	32	2	39	7	179
令和17年度	1	22	1	26	1	27	1	29	1	30	1	32	6	166
令和18年度	1	22	1	25	1	26	1	28	1	29	1	30	6	160

※学級数は普通級数を児童数は総児童数を表示している。

※令和8年度からは推計を表示している。

児童生徒数推移一覧（抜粋）

年度 学校	平成 13 年度		令和 7 年度		令和 18 年度	
	学級数	児生童徒数	学級数	児生童徒数	学級数	児生童徒数
八街中学校	24	920	14	461	11	367
八街東小学校	28	1,002	18	598	17	481
八街北小学校	16	551	8	224	6	160
合計（児童数）		1,553		822		641
八街中央中学校	25	958	13	489	8	283
実住小学校	32	1,226	20	655	15	420
交進小学校	18	630	6	159	6	108
合計（児童数）		1,856		814		528
八街南中学校	18	665	6	206	4	114
笹引小学校	12	293	6	90	6	72
二州小学校	9	248	6	96	6	79
二州小学校沖分校	4	57	2	6	4	15
川上小学校	21	734	6	124	6	91
合計（児童数）		1,332		316		257
八街北中学校	14	485	7	227	3	89
朝陽小学校	28	972	12	332	6	152
合計（児童数）		972		332		152

※学級数は普通級数を児童数は総児童数を表示している。

※令和 18 年度は推計を表示している。

取組事例Ⅰ（併設型小中一貫教育：長柄町）

Ⅰ. 取組の概要

- (1)長柄小学校・日吉小学校の2小学校を令和11年4月に統合
- (2)統合した小学校を長柄中学校敷地に設置し小中一貫教育を推進

2. 取組の基本的な考え方

- (1)こどもたちにとってより良い教育環境の構築と質の高い学校教育を実現する。
- (2)小学校の学校規模を複式学級が生じない規模とし、少なくとも1学年1学級以上の児童数を確保する。

年度	学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	合計
令和6年度	長柄小学校	18名	19名	13名	12名	21名	19名	102名	180名
	日吉小学校	13名	14名	13名	14名	13名	11名	78名	
令和12年度	長柄小学校	9名	9名	18名	16名	18名	5名	75名	132名
	日吉小学校	7名	5名	11名	10名	12名	12名	57名	

3. 意見の集約

- (1)小学校のあり方についてのアンケートを実施。

【対象者】

- ◇保護者（こども園、小学校）
- ◇民生委員
- ◇青少年相談員
- ◇自治会長
- ◇教職員（こども園、小学校、中学校）
- ◇児童・生徒（小学校5・6年生、中学校1・2年生）

【主な意見】

- ◇子どもの人数が年々減少し、学級の児童数が非常に少ない。
- ◇学校行事等は、児童数が多い方ができることの幅が広がり、選択肢が増える。
- ◇人数が多い方が、多様な人格と触れ合うことができ、競争心が芽生えるだけではなく、協調性が育まれる。友達関係が広がる。

- (2)住民・保護者説明会の実施（令和7年度～、5回（予定））

4. 特記事項

- ◇併設型小・中学校の形態をとることで、小学校と中学校の垣根を越えて9年間を通じた教育課程を編成し、学習指導や生徒指導の充実を図る。
- ◇統合後は、児童の通学距離に応じてスクールバスを運行し、登下校の利便性と安全性を両立する。
- ◇統合後の学校は、日々の学校教育活動や地域活動の施設であるだけでなく、災害時の避難施設や防災拠点としての機能を確保する。

取組事例2（義務教育学校：成田市）

I. 取組の概要

- (1) 下総地区の4つの小学校（滑河小学校、小御門小学校、名木小学校、高岡小学校）と1つの中学校（下総中学校）を平成26年4月に統合し、併設型小・中学校として開校
- (2) 平成29年度から義務教育学校へ移行し、「成田市立下総みどり学園」開校

2. 取組の基本的な考え方

- (1) 一学年複数学級が確保できる12～18学級の規模となるよう学校規模の適正化を図る。
- (2) 9年間を一体のものと捉え、発達段階を踏まえた一貫性の高い教育を行う。

学年編成	学習活動
前期（1～4年生）	自分と向き合う：学習や集団生活に必要な基礎・基本を身に付ける
中期（5～7年生）	他者と向き合う：自ら学ぶ習慣や良好な人間関係を築く力を身に付ける
後期（8～9年生）	将来や社会と向き合う：進路決定に向け、自律と自立に基づいた行動・言動を身に付ける

3. 意見の集約

- (1) 下総地区住民説明会を実施（平成20年7月、計2回）
- (2) 各小中学校保護者説明会を実施（平成20年7月、計8回）
- (3) 下総地区小中連携推進委員会を発足（平成23年7月）

4. 特記事項

- (1) 5,6年生では、ほとんどの教科で学級担任ではなく、教科担任による授業が行われている。
- (2) 学校統合後は、児童生徒の安全確保のため、前期課程の児童はスクールバスを利用して登下校している。
- (3) 学校統合、廃校となる学校の土地・建物については、地域での市民利用等、市民ニーズを踏まえて利活用している。
 - ◇ 旧滑河小学校は、文化財保存展示施設として整備し、また、体育館を地区運動施設として開放している。
 - ◇ 旧名木小学校は、主に自閉症などの知的障がいがある方を対象とした障害福祉サービス事業所として活用している。
 - ◇ 旧高岡小学校は、体育館及びグラウンドを地区運動施設として開放している。

取組事例3（小規模特認校：袖ヶ浦市）

1. 取組の概要

(1) 袖ヶ浦市立平岡小学校幽谷分校を小規模特認校に指定

【小規模特認校指定後の児童数の推移】

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
学区外児童	6名	7名	5名	5名	5名	1名
学区内児童	9名	10名	7名	6名	7名	2名
計	15名	17名	12名	11名	12名	3名

(2) 袖ヶ浦市立平岡小学校幽谷分校を袖ヶ浦市立平岡小学校本校に統合

2. 取組の基本的な考え方

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現を担保する。

(2) 児童の増加を図り、複式学級の解消を目指す。

3. 意見の集約

(1) 学区内住民等の懇談会等を実施(平成29年～平成31年, 計5回)

(2) 在学児童の保護者の懇談会等を実施(平成29年～平成31年, 計5回)

(3) 未就学児の保護者を対象に意向調査を実施(計2回)

【主な意見】

◇少人数すぎる教育環境が不安。

◇分校の伸び伸びとした教育環境を望んでいる。

◇途中から(5年生から)本校に通わせる位なら初めから本校に通って友達を作ってほしい。

(4) 幽谷分校のあり方検討委員会の設置(平成30年～平成31年, 計4回)

4. 特記事項

◇児童の増加を図るため、小規模特認校制度を導入したが大幅な増加には至らなかった。

◇児童にとってどのような教育環境が望ましいかを争点として意見を集約した。

◇平成31年4月入学の児童が4学年修了時となる令和4年度末をもって統合することとした。

◇本校と分校を統合後、旧分校の修学区域はスクールバスを運行することとした。

◇本校と分校を統合後、旧分校については事業者へ貸付けることとしたが、引き続き避難所や投票所として利用できるよう覚書を締結した。